

## 臨床心理学専攻（博士後期課程）

### 1. 教育研究上の目的

臨床心理学専攻は、その研究と実践における倫理を十分に身につけていることを前提に、普遍性を重視する科学的視点と個別性を軸とする臨床的視点の両方を含んだ人間心理に対する多面的なアプローチをより高度なレベルにおいて実践及び研究することができる人材を養成する。

### 2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

臨床心理学専攻（博士後期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「博士（臨床心理学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 人間の心理とそれを取り巻く社会における問題の解決に寄与する臨床心理学の諸理論及び技法を十分に修得しており、高度なレベルで実践することができる。
2. 人間の心理やそれに関係する社会現象を個別的かつ普遍的に捉えるための研究方法を十分に修得しており、新たに得られたデータに対して応用することができる。

（思考・判断・表現）

3. 普遍性を重視する科学的視点と個別性を軸とする臨床的視点の両方を含む、人間心理に対するアプローチの多面性を十分に理解しており、多視点から人間心理を把握することができる。
4. 専門的文献を高度なレベルで理解した上で、自身の問題意識の観点からその内容を臨床実践と研究に応用し、論文の形で出力することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 社会通念的な常識や自身の考え方の前提を建設的な意味合いで批判的に捉えようとする態度を有している。
6. 関わっている対象に関して自身で問題を発見し、そこから新たな方法論をもって結果を分析し、それを説得力ある論理を用いて展開し表現しようとする態度を有している。
7. 臨床心理実践における倫理及び研究に関わる倫理、両者の重要性を十分に自身のものとしており、責任ある専門職としてとるべき倫理的な態度を有している。

### 3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

臨床心理学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラ

ムを体系的に編成します。

(教育内容)

1. 博士論文を構成する複数の論文の執筆を通して、学術論文を読み込み、研究課題を自ら設定し、その課題にふさわしい臨床心理学の研究法（事例研究法、面接法、実験・質問紙調査法・観察・面接法）を選択して研究計画をたて、学術論文を論理的に構成し、研究成果のプレゼンテーションのスキルを高度なレベルで修得する。（思考・判断・表現）
2. 臨床心理面接の技能を獲得するために、学内実習施設において心理相談及び心理査定を担当し、その実習における体験について、守秘のもとに記録を作成し、内省し、スーパーヴィジョンを受けて、さらに考察を深め、そこで得られた知見をケースカンファレンスにおいて共有する「臨床心理実習（心理実践実習）」を配置する。（知識・技能）
3. 臨床実践の技能を獲得するために、医療及び教育・福祉・産業等の現場において実習を行う。これらの現場実習での体験について守秘のもとに記録を作成し、内省し、実習指導者の指導を受けて、そこで得られた知見を考察し、論文として構築していくために、「心理学演習5」を配置する。（知識・技能／関心・意欲・態度）

(教育方法)

1. 臨床心理学、臨床心理面接、臨床心理査定、各種の臨床心理技法、精神医学、各領域における臨床心理の実践、臨床心理実践の倫理、臨床心理関連法規等について、少人数のゼミナール形式及び個別指導によって、能動的な学習を重視する。
2. 博士論文の指導は、複数教員による少人数指導及び個人指導により行う。
3. 臨床実習並びに心理アセスメントに関して、ケースカンファレンス、グループスーパーヴィジョン及び個人スーパーヴィジョンによる指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、博士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 指導教授による演習科目において、これまで蓄積されてきた豊富な知識と高い水準にある論理的思考を用いて具体的な問題を検討し、新たな視点から解決しようとする姿勢とそのための方法論や論理構築をすることができる能力を測る。これらを踏まえた上で、博士論文の審査を通じて、より高度で専門的な学問的能力についての評価を行う。

#### 4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

臨床心理学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備え

た学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 臨床心理学専攻における実践・研究に必要な心理学の知識を十分に自分のものにしており、使いこなすことができる。
2. 海外の専門文献の講読と読解に必要な複数の語学力を有している。

(思考・判断・表現)

3. 人間に対する共感的な興味・関心と倫理的な配慮を持ち、社会貢献への志向を有している。
4. 臨床心理学にとって必要な個別的な素材から普遍的な論理を構築することができ、それを説得力をもった論述と構成をもって提供することができる。

(関心・意欲・態度)

5. 臨床心理学の研究に意欲的に取り組み、人間的な共感と倫理観に基づきながら研究及び実践を高度なレベルで遂行しようとする態度を有している。

以 上